

KPI設定の考え方

KPI見直しにあたっての主な視点

KPI (Key Performance Indicator) …重要業績評価指標

1. 本市が主体的に数値を把握できるか

本市以外が調査・集計しているものをKPIとした場合、その調査・集計自体が廃止される可能性や指標の定義、調査・集計の方法が変更されて、適切な数値の把握ができなくなる可能性がある。そのため本市が主体的に数値を把握できる数値を中心に、KPIは検討する必要がある。

2. 数値の変動要因を把握、分析できるか

KPIを効果的に活用するためには、進捗を踏まえて事業の効果性を検証する必要があるが、例えば人の心理が関連している指標は、社会経済情勢の影響を受けやすく、数値の変動要因を把握、分析することが難しくなる可能性があり、「実施した事業がKPIに寄与したのか、何がKPIの変動に影響したのか」の検証も容易ではない。そのため数値の変動要因を把握、分析できる指標をできる限り設定する必要がある。

3. 外部要因の影響が大きすぎないか

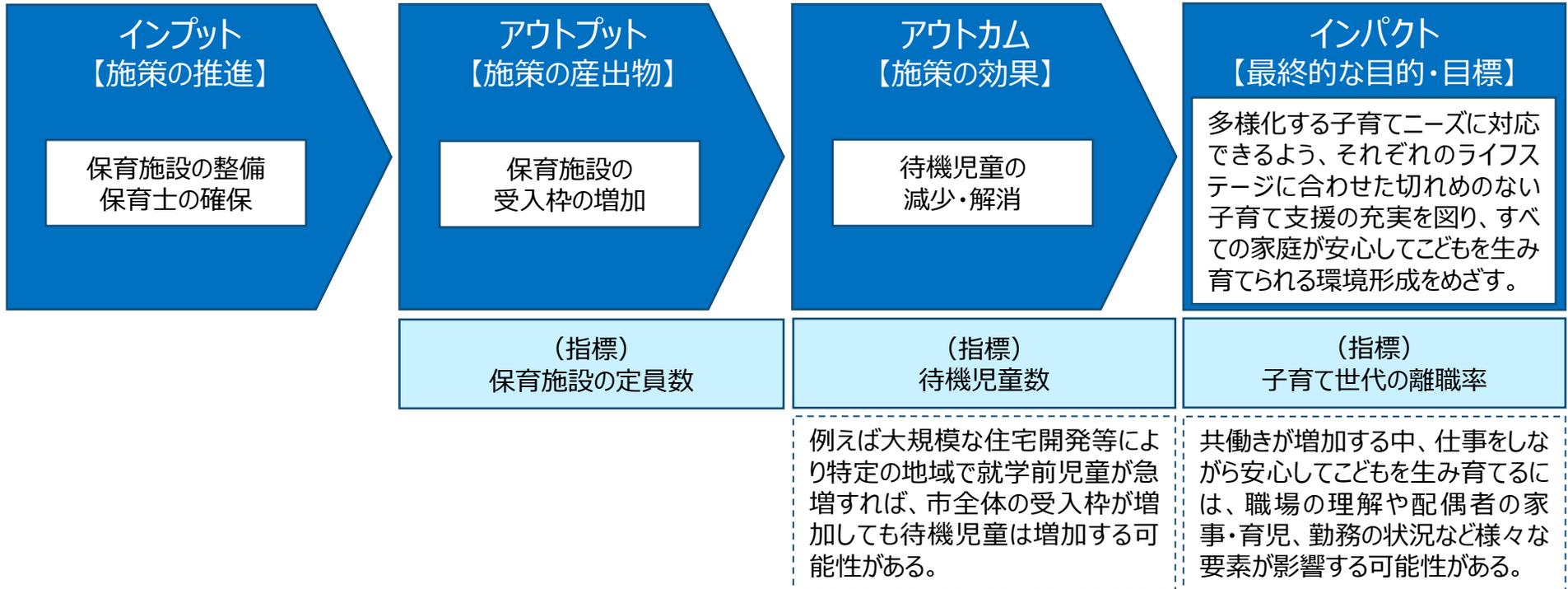
どのような指標でも、外部要因の影響を一定受けることはやむを得ないが、その影響が大きすぎた場合は事業の効果性や施策の進捗状況を適切に把握することが難しくなる。そのため外部要因の影響が大きすぎない指標を設定する必要がある。

4. 5年間の着実な施策推進により実現可能な目標値か

目標を高く持って施策を推進することは重要であるが、KPIは理想を掲げたものでなく、あくまで施策の評価指標である。「施策に位置づけられる各取組を5年間実施すれば、どの程度の向上が見込めるか」を想定するなど、実現可能性を踏まえて2030年度の目標値を設定する必要がある。

KPI設定のロジックモデル（イメージ）

【例】 施策 3-（1） 妊娠から青年期まで切れめのない子育て支援の充実



※アウトプットやアウトカムには複数の段階がある。上記例はイメージとして単純化。



KPIはより高次であることが望ましいが、施策の評価指標であることを踏まえ、外部要因の影響度の大きさ等を考慮の上、検討する必要がある。

KPI設定の考え方（案）

※は現行の基本計画のKPI設定においても基本としている考え方で、次期基本計画に引き継ぐもの。

指 標	<p>重点戦略の施策ごとに1つのKPIを設定することを基本とする。 ※</p> <p>指標の設定にあたっては、以下を主な視点として検討する（指標の必須要件ではない）。</p> <ul style="list-style-type: none">① 定量的な指標であること ※② できる限り毎年度、数値を把握できる指標であること ※③ 本市が主体的に把握できる指標であること④ 数値の変動要因を把握、分析できる指標であること⑤ 外部要因の影響が大きすぎない指標であること
目標値	<p>「100%」や「ゼロ」などの理想を掲げた目標値ではなく、計画期間の5年間の施策推進により実現可能な目標値を設定する。 ※</p>